

観光ガイドマップ

自然と歴史の薫るまち

町名の由来である「雄物川」が中央を流れ、湯量ゆたかな温泉や四季折々の自然にあふれ、神社・仏閣が数多く点在する自然と歴史の薫るまちです。

① えがおの丘



景色最高のやわらかな天然温泉は爽快な湯ぶり、大浴場のほか、汗流すサウナなども楽しめます。雄大な自然と眼下に流れる雄物川を見渡せる露天風呂からの眺めは、絶景のひとつに思えます。

秋田県雄物川町今宿字水鏡 57-1 TEL.0182-22-2221

② 雄川荘



どの階層からも眺望できる雄物川平野の大パノラマと、眼下に広がる雄物川や田圃の四季の移ろいは最高です。ガラス越しの眺りに流れる雄物川を眺めながら入る天然温泉は、心地よい癒しを味わえます。

秋田県雄物川町今宿字雄 72-1 TEL.0182-38-6530

③ 不動の滝



扇状地上部の水を蓄めて流れ落ちている滝である。ブナ・ミズナラの木々の間から青の生命であるかのように白布を垂らしている。曇層け水を一気に落とす落差は迫力満点であり、新緑と紅葉の季節は特に美しい。また、ミソリサイ、カワガラスの鳥獣が舞う舞臺である。

④ かすみ桜



樹高15m、幹周り2.5m(樹齢150年)で風害に耐えてきたたくましい大木である。真空をバックに咲く姿は、天女の舞り立つ瑞雲を惹かせる美しさである。

花期—5月10日前後

⑤ 傘杉(からかさぎ)



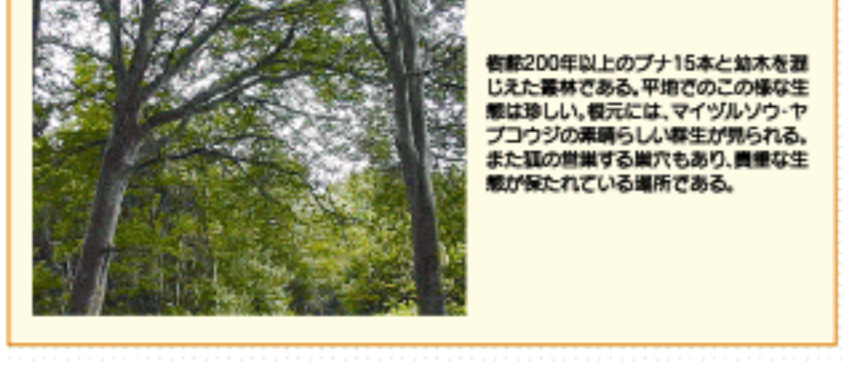
樹高16m、幹周り4.4m(推定樹齢300年)で、樹冠が傘の形をしており、幹木として使われている。枝々の入り組みは奇異さを感じさせる珍しい大木である。雄物川の清流が入り込んだ時代は、船をつないだともいわれている。例に似ており、一時はこの清流を利用した茶屋が建てられた村もあった。

⑩ 領界碑



幕府期の初め、秋田藩が領内の15箇所に建立したと伝えられる石標のひとつで、「従軍奉秋田藩」と三面に刻まれている。当時の矢野と領界を示す貴重な資料である。

⑥ 八幡野ブナ生育地



樹齢200年以上のブナ15本と地木を源じえた森林である。平野でのこの様な生態は珍しい。樹元には、マイヅルソウやフコウジの茶摘らしき草花が咲く。また狐の窟や山鹿の窟もあり、貴重な生態が保たれている場所である。

⑦ 二井山湯殿山神社



寛政期(1615~23)に創建されたといわれる。出羽三山の湯殿山人家に属する修験道寺院(由緒形式の建物、平成9年改築)で、当初は新光山湯殿山社と称したが、明治の初めの神仏分離令によって「湯殿山神社」となった。

⑧ 大沢口目御番所跡



藩政期の初め、秋田藩では他藩との境口に15箇所の関所を設け、出入国者の「通行成敗」を行った。矢野と領界であった大沢村の下(湯殿山町大沢寺の下の)にも当初から関所が設置されていたが、寛政4年(1792)に「大沢口目御番所」と改称された。

⑨ 八幡野ブナ生育地



樹高15m、幹周り2.5m(樹齢150年)で風害に耐えてきたたくましい大木である。真空をバックに咲く姿は、天女の舞り立つ瑞雲を惹かせる美しさである。

⑩ 矢神八幡神社



永享2年(988)の遷座といわれ、京都の男山八幡宮(石清水八幡宮)の分霊を勧請したものと伝えられる。さらに前九年の役(1051~62)で源頼朝、頼朝父子が、安房氏過剰の祈願を平定した後、延長2年(1070)に15町4箇の社殿を造営した。その後、頼朝が赤松家の御本尊を石清水八幡宮より遷座して弓矢神八幡宮とし、社額80石を寄進した。矢神の地名もこれによる。

⑪ 天保無縁塚



天保4年(1833)は異相現象が続き、東北一内が大凶作であったと記録されています。当地(雄物川町湯井)にも罹災が深刻を求めましたが、精進忌明けの日に御札が折れ、113名が出るという悲劇がおこってしまいました。村人たちはこれを恐れ、火葬して赤松家に手渡す時、その墓を建てたといわれています。

⑫ 六郎石



昔、岩殿城主のお姫様を嫁としてもらいたいばかりに、山男の「六郎」が抱いたという岩、抱いた真目や驚かされた跡が残っている。

⑬ 今宿神明社



寛政13年、平鹿藩助村湯井の村士族で地主の家に生まれた。きつめて頭巾を被り少年で、湯井尋常小学校や大曲尋常小学校高等科を修業して卒業、富に私立日本中学校に入塾し、一賞(現大曲大学)に入学した。

おものがわご利益通り

あなたに沢山の利益がありますように